

モデル事業名	既存資源を活かした産官民連携によるまちづくり組織「上士幌コンシェルジュ設立」プロジェクト
活動団体名	上士幌町交流と居住を促進する会
ホームページ	上士幌町役場 http://www.kamishihoro.jp/ 移住.com http://www.ijyuu.com/
所属/ 担当者名	上士幌町役場企画財政課/須田修
連絡先	電話番号 01564-2-2111、Eメールアドレス kikakuzaiseika@town.kamishihoro.hokkaido.jp
活動地域	北海道河東郡上士幌町

● 活動地域の概要

北海道十勝管内北部に位置する上士幌町は、約 700 k m²の広大な面積を抱え、南部の平野部には畑作や酪農地帯が広がり、北部には大雪山国立公園を中心とした森林が広がっており、農畜産物、豊かな自然、温泉、景観、文化財など多様な地域資源に恵まれた地域である。しかし、上士幌町も北海道内の他の市町村同様、過疎化、高齢化が進む中で、新たな魅力をもつ観光地づくりと併せて、移住・定住の促進等、都市と農山村との交流による地域活性化が緊急の課題になっている。

①人口・世帯数の推移 ※国勢調査より () 内は世帯数及び高齢化率

昭和 35 年～10,570 人 (2,050 世帯、4.1%) 昭和 50 年～8,143 人 (2,295 世帯、7.6%)

平成 2 年～6,380 人 (2,213 世帯、15.5%) 平成 17 年～5,229 人 (2,215 世帯、30.1%)

②産業別就業者数の状況 ※国勢調査より () 内は全体に占める割合

第 1 次産業～908 人 (32.7%) 第 2 次産業～450 人 (16.2%) 第 3 次産業～1,416 人 (50.9%)

③公共交通に関する状況

現在、民間バス会社 2 社により帯広市まで路線バスが運行されているほか、民間バス会社 3 社共同による都市間特急バス（帯広―旭川）が運行している。

④移住・二地域居住の状況 ※役場移住ワンストップ窓口相談のあったもののみ

平成 17 年度～1 組 1 人 平成 18 年度～2 組 5 人 平成 19 年度～4 組 6 人 平成 20 年度～8 組 15 人

⑤移住生活体験モニターへの受け入れ状況

平成 18 年度～8 組 17 人 平成 19 年度～8 組 15 人 平成 20 年度～20 組 37 人



【位置図】



【人口の減少が進む町なみ】



【H20 年度に新築された生活体験専用住宅】

● 活動地域の課題

上士幌町では、平成 16 年度に、健康・環境・観光をキーワードに、町の豊富な地域資源を活かし、その効果を科学的に検証しながら、各々の地域資源について付加価値を高め、都市と農山村との共生・対流による地域活性化を図る「イムノリゾート上士幌構想」を策定し具体的施策を展開する中、下記 1)～3) のような活動を実施してきた。

- 1) 役場：移住ワンストップ窓口の設置、ホームページやブログによる情報発信、生活体験モニター事業の実施。
- 2) 上士幌町交流と居住を促進する会：首都圏プロモーション、不正形等農地・空き家調査、モデル住宅プラン作成等の実施。
- 3) 民間企業：町内の廃校跡を活用し様々な体験活動を通して都市住民と地域住民との交流促進の実施。

現在、これらの事業はそれぞれ、行政、地元団体等、民間企業などが単独あるいは連携して実施してきているが、より効率的かつ有効な取組みとするためには、全体をコーディネートしながら主体的に事業を実施する地元民間事業者や地元住民の協力者からなる、まちづくりのための組織「上士幌コンシェルジュ」の立ち上げが必要である。

本モデル事業では、都市と農山村の共生・対流を目的とした事業の実施を通して、上士幌コンシェルジュの立ち上げと、その持続的かつ安定的な運営を目指す。

● 活動の内容

・平成 20 年度

上士幌コンシェルジュの設立及び持続的かつ安定的な運営に向けて、以下の取組について調査・実証実験を行った。

- 1) 旅行代理店事業の実証実験
- 2) 地場産品を活用した新商品開発・物品販売事業の検討
- 3) 二地域居住・移住促進のための不動産管理事業の検討
- 4) 上士幌町移住促進プロモーション事業の検討

・平成 21 年度

前年度の取組を基に、上士幌コンシェルジュの組成及び持続的かつ安定的な運営に向けて具体的検証を実施中。

- 1) 上士幌町コンシェルジュの事務局を担う人材の募集
- 2) 旅行代理店事業の具体的検証
- 3) 新商品開発・物品販売事業の検証
- 4) 不動産管理事業検討
- 5) 上士幌町移住促進プロモーション事業実施

● 活動の成果

・平成 20 年度

- ・林間学校の取組を通して、滞在者に提供した各種コンテンツは概ね好評であり、一定の手応えを感じることができた。
- ・新商品の開発では、アンケート結果を基にさらなる改良の余地が認められた。また販売、PR活動の検討も行う必要がある。
- ・不動産事業の検討では、モデル住宅を本来の「移住促進・二地域居住のお試し」を優先する事を前提に、空きがある場合にはそれ以外の目的（旅行などにおける短期滞在など）にも貸し出せる仕組みにすることが考えられた。
- ・産官学それぞれの主体が、今回の林間学校のような活動の「核」となるものに企画段階から参加すること、また町民が都市住民と直接ふれ合い、自らが街の素晴らしさを伝えることで、町内の各主体（特に高校生）のモチベーションの向上とコミュニティの創生が図られた。



【食を通じた地元住民との交流】



【上士幌ならではの体験を楽しむ参加者】



【試作品制作に奮闘する地元高校生】

・平成 21 年度

- 1) 事務局人材募集：上士幌コンシェルジュ事務局設置に向け、NPOの組成準備中。
- 2) 旅行代理店事業：8/7～10 夏の林間学校実施済。冬の開催に向け、過去 5 回実施済みのコンテンツをカテゴリ分けメニュー化。道内旅行代理店での共同募集を推進中。
- 3) 新商品開発：上士幌の食材を利用した商品開発に関する調査ヒアリングと、商品化に関する設備及び加工委託の調査ヒアリング。東京及び札幌フレンチレストランでの試作品制作の実施及び、商品化可能なレシピの検討と可能な加工手法の検討中。
- 4) 不動産事業の検討：現在役場にて実施中の作業を取りまとめ後、民間委託した場合のシミュレーションを実施。
- 5) プロモーション：「移住.com」のカスタマイズ中。段階的に修正ページよりアップ予定。



【『自分でやろう!』を目標にした夏の林間学校】

● 今後の課題及び展望

・課題

上士幌の既存の資源（人的・自然・食・施設等）を最大限に活用したコミュニティビジネスを創造すべく取り組んだ今回の取組は、人と人とのコミュニケーションを軸としている。特別な地域資源に頼ったものではないため、どの自治体でも実現可能な取組である。最も重要なのは「町を知ってもらい」「訪れた時に良い対応ができる環境」を作れるか、ということであり、これらの活動を「民」が主体となり行うことの意義は大きい。一方、街の魅力を最大限に活かすための、プロモーションや受け入れ体制を整えるには、人材や資金の不足など課題も多い。

・展望

地域が主体となった活動に必要な人材発掘と育成（インキュベート）を組み合わせるなどの工夫や、長期・短期滞在者のニーズをさらに掘むためのメニュー多様化に取り組む必要がある。また、来年度以降も継続した活動を実施する為の基盤として、NPO組成を推進し目標へ向け前進していくことが必要である。

